上田市教育委員会 7月定例会会議録

1 日 時

令和元年7月18日(木) 午後3時00分から午後4時54分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
委 員	平 田 利 江 子
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一

説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、深町丸子学校給食センター所長、小泉中央公民館長、山口上野が丘公民館長、清水上田図書館長、久保田交流文化芸術センター副館長、滝澤上田市立博物館長

1 あいさつ

まもなく各学校は夏休みを迎える。7月25日から27日にかけて夏休みに入る。小中を合わせた夏休みの期間は、25日間で2校、27日間で11校、28日間で16校、29日間で4校、30日間で3校である。昔に比べるとずいぶん長く、昔はお盆が終わると2学期に入っていた。各学校ばらつきがあるが、年間授業日数は205日から207日である。各学校の事情によって夏休みを長くしたところは冬休みを短くしている。この夏休みの間、教育委員会の健全育成、公民館、各地区育成会は夏休みの行事を計画している。子どもたちのために満足のいく夏休みにしていただきたいと思う。もう1つ配慮しなくてはいけないことは、2学期のスタート時点で各学校の登校の渋りや不登校を起こさないことである。各学校へ個別の対応に力を入れて支持してまいりたいと思う。良い1学期の締めくくりができればと考えている。それでは協議事項に入る。

2 協議事項

(1)平成30年度教育行政に係る事務の点検及び評価について(教育総務課)

資料1により石井教育総務課長説明(要旨)

1.概要

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育に関する事務管理及び執行の状況について点検及び評価等を行い、報告書を作成し、議会へ提出するとともに公表することとされている。教育委員会では、「上田市教育行政評価懇話会」を設置し、有識者である委員の皆さまから評価・提言をいただき、事業の改革・改善に役立てている。

2.対象事業

点検及び評価等の対象事業は、市の目標管理制度において、その中で毎年設定している重点目標を掲げている。平成30年度の事業については、教育委員会の方で重点事業としている19事業について評価の対象とする。

3.スケジュール

3月の定例会において、19の重点事業について実績の報告をさせていただいた。今回、お示しさせていただいたシート、様式の説明ではなかったが、内容については説明させていただいた過去の経過がある。6月、7月ということで、教育行政評価懇話会を2回開催した。

1回目は学校教育の分野、2回目が社会教育分野ということでそれぞれ説明させていただき提言、ご意見等をいただいた。それをまとめたものが、資料の2枚目を見ていただくと報告書の(案)があり、本日も協議いただくものである。裏面をご覧くださいと目次がある。目次には、先ほどの19事業についてこちらに掲載している。この後順次、説明をしてご意見をいただきたいと思う。

次に1ページをご覧ください。教育行政評価懇話会の委員皆さまのメンバーの名簿を下の方で記載している。委員の皆さまからご意見をいただいている。次に2ページをご覧ください。評価の方法については、平成30年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価をさせていただいた。評価シートについて、中身はこ

の後ご説明させていただくが、事業名、当初目標、具体的な取組、目標の達成状況、こちらについては、先ほどご説明したように大まかな話は3月に話した内容と重複するため、本日その分についての説明は、簡略あるいは省略させていただく場合もあるのでご承知いただきたい。総合評価以下の部分で特に上田市教育行政評価懇話会委員からの意見、このような意見をいただいた。それに対して教育委員会は、このように考えているというあたりを中心に説明させていただくので、それについてご意見をいただきたい。

それでは、資料1に戻っていただき、今ご説明した特にご意見をいただきたいことで、教育委員会7月定例会ということで四角く困ってある。事業評価シートにおける「委員からの意見に対する考え方」について協議させていただきたい。この後の予定だが、3回目の懇話会が7月22日(月)に開催される。今日、皆さまからいただいた意見等も含めた中で報告書の(案)をお示ししてまたご意見をいただく。最終的に8月の部長会議で報告をして、9月の議会に提出をするという流れである。

峯村教育長

それでは、資料1の評価報告書(案)の目次をご覧ください。の評価の結果及び懇話会の提言内容等が5つある。この5つに沿って進めさせていただく。今回、池田スポーツ推進課長は会議の都合により、事業評価シート5番のスポーツ推進の方からはじめさせていただきたい。そこに、3報告事項(4)スポーツ関係市長表彰についても割り込ませていただきご退席いただく。それでは、5- から5- についてお願いしたい。

資料5- により池田スポーツ推進課長説明(要旨)

事業名「スポーツ施設の整備」について、19ページをご覧ください。当初目標はスポーツ推進審議会に基づき、計画を策定する。また、その計画に基づき、さまざまな大会の開催、あるいは財源等を踏まえ検討を進める。これについての目標達成状況は、計画は平成30年5月に策定し、委員の皆さま方にもご報告を申し上げている。現在、関連部局と打合せ、協議等を進めており、計画に基づいた各種施設の整備に向けた取組を始めている状況である。総合評価についてはBとさせていただく。委員からの意見は、当初目標どおりに計画が策定されたことは評価する。また、テニスコート及び体育館については、建設場所、財源等の課題はあるようだが、この4月から新設されたスポーツ施設整備室をはじめ、庁内関係課と連携を図りながら着実に事業が進むことを期待するというご意見をいただいた。意見に対する考え方は、新テニスコートの整備については、現在候補地の選定作業を進めており、併せて庁内関係課、県等と情報共有を図りながら、財源の確保を含め取組んでいる。また、新総合体育館の整備については、新テニスコートの整備後、本格的に着手することになるが、こちらも関係課と連携を図りながら事業を進めていくということが意見に対する考え方である。

資料5- により池田スポーツ推進課長説明(要旨)

事業名「生涯スポーツの振興と競技力の向上」について、当初目標は各種スポーツ事業、教室等々の目標設定をしている。達成状況は、これらの取組みにおいて、生涯スポーツ、あるいは競技スポーツの一層の推進を図った。昨年度発足した総合型スポーツクラブの連絡協議会が

活発化し、身近なスポーツ機会の充実に寄与した状況である。(1)(2)(3)のそれぞれの目標に対する事業の回数を資料に掲載しているのでご覧いただきたい。総合評価はBとする。委員からの意見は、誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりをめざした取組の1つとして、総合型地域スポーツクラブによる連携事業がより活発に行われたことは評価された。今後についてもそれぞれのスポーツクラブの良さを生かしながら、市民の体力づくりの一翼を担う取組が続けられることを期待する、との意見をいただいた。これに対する考え方は、スポーツクラブ間の相互連携と資質向上のため発足した連絡協議会では、市内の商業施設などのPR活動を含めたスポーツイベントや、広報うさだでの事業紹介など行ってきた。総合型スポーツクラブはスポーツ基本法においても行政が支援することと位置付けられていることから、今後についても事業運営に対する協力、また最終的に各クラブの自主的な運営が可能となるよう、国・県などの補助金等も活用しながら支援を行っていききたい。続いて21ページをお願いしたい。

資料5 - により池田スポーツ推進課長説明(要旨)

事業名「スポーツにかかわる人材育成とスポーツをささえる地域づくり(ラグビー競技普及啓発)」について、当初目標は指導者講習が2回、児童・生徒を対象とした体験事業を5回行うとした。目標の達成状況は、体験事業については学校の方からのご理解をいただき、当初目標を大幅に上回ることができた。5回の目標に対して29回の実施、合計すると786人、職員・一般の方を含めて参加いただくことができた。総合評価についてはAの評価をさせていただく。委員からの意見は、児童・生徒を中心とした体験事業が行われた。競技への関心の高まり、競技そのものの定着に結び付いたことを評価する。加えて、菅平高原のブランド力をはじめ、上田市の魅力を再認識する機会にもなったこと。今後も学校等の理解と協力を得ながら、このような取組が一定程度継続するよう努めることを期待する、との意見をいただいた。意見に対する考え方は、地域での競技に対する理解と浸透、底辺の拡大、また、さらなる定着に向け、関係部局と引き続き連携しながら今後も普及啓発事業に取り組んでいきたい。

峯村教育長

5 - から5 - までの評価についてご意見をお願いしたい。

質疑

横関委員

5 - の上田市スポーツ施設整備基本構想及び、整備計画の冊子の作成は、3月1日にホームページの方に載せていただき、よくまとまっていて冊子をつくるのに大変ご苦労されたと思う。その上でこれからどうするのか。建設候補地の選定は今後の方針として地域自治会や地権者、関係者等との協議を行うことについて、上田市古戦場公園周辺に体育館ができるのか、できないのか関心でもあるかと思う。ここは資料からいくと、中央と西部地域になるかと思うが、もしそこから建設候補地が外れる場合でも建てられる場合でも、その説明をしていただきたい。また、せっかくできた整備計画の冊子を知らない市民の皆さんがいらっしやると思う。広報にも載っていないので、整備計画を作り動いていることを市民の皆さんにお知らせいただき

たい。やはり、皆で作っていくという気持ちを高めていければ良いと思うので検討していただきたい。そのほか、5 - の今後の課題等に記載のある、ラグビーワールドカップが終わった後のことだが、「大会後も理解と関心が継続するよう」について、ここがいちばんの問題だと思う。具体的に考えておかななくては、終わってからさてどうしようでは困ると思う。どんなことが考えられるか、方針等のところでどのようにしていくのか、もう少し具体的に考えていただきたい。用具も揃えたりするので、その点もどのようにしていくのか考えていただきたい。

池田スポーツ推進課長

施設の方は承知した。さまざまな方向・整備にあたっての市民への周知等々は努めていきたい。ラグビー普及率については、主体的にはご案内のとおりだが、市長部局の交流文化スポーツ課が担当している。教育委員会とすれば、スポーツ推進課、あるいは学校教育課が小中学校の児童・生徒をメインとして普及というところでの取組をしてきている。またその役割を市長部局から依頼され進めていることで、教育委員会としてさらに今後どのようにしていくかは、交流文化スポーツ課の方針と合わせてそれに沿った形でやっていくことになるかと思う。私どもとして、こういうことにしていくと明確にお答えはできないことをご理解いただきたい。

横関委員

了解した。

峯村教育長

ほかにはご意見等いかがか。よろしいか。

全員了承

峯村教育長

次に3報告事項の(4)スポーツ関係市長表彰についても割り込ませていただく。

3 報告事項

(4)スポーツ関係市長表彰について(スポーツ推進課)

資料4-2により池田スポーツ推進課長説明(要旨)

市長表彰については、「市長表彰制度」に基づき、これまで教育委員会に係る内規を設けてそれに該当するものについて教育委員にご協議をいただき、市長部局の方に推薦する形で進めている。今回のご報告の対象者は、「うえだミックススポーツクラブ上田エンジェルス(チアリーディング)」である。内規とすると、このチアリーディングの大会、あるいは所属の団体が教育委員会で定めている内規にはならない。ただ、市長の方で定める市長表彰要領第2条(表彰の対象)第2項「市長が適当と認めたもの」については該当とする。市長が差し上げたというようなことに基づいて、今回は協議ではなく報告という形で申し上げたいと思う。資料の2番をご覧ください。表彰理由は、市のイメージアップ、知名度アップ等に貢献するものである。受章者は今申し上げたとおり、うえだミックススポーツクラブ上田エンジェルス(チアリーディング)チームである。大会の内容は、The Summit 2019 チアリーディング世界大会インターナショナル ジュニア レベル2部門第2位に輝かれた。このレベル2部門については、全65チームの中から第2位の成績であった。大変すばらしい成績である。

世界大会については、出場の総数が約1,500チームというかなり大規模な大会である。通常、表彰については冬のスポーツを5月、6月、また、春、夏、秋のスポーツを冬前にまとめて表彰を申し上げる形をとっている。今回は特別な配慮ということで、7月6日(土)に練習している皆さんのところにお伺いして、表彰状とトロフィーを授与したところである。

峯村教育長

スポーツ表彰についてご了解いただけたか。

全員了承

峯村教育長

それでは、事業評価に戻らせていただく。学校教育課、事業評価シート1- から1- まで説明をお願いしたい。

資料1 により緑川学校教育課長説明(要旨)

事業名「学力の定着・向上」について、当初の目標は、(1)家庭学習を行う習慣づくりが重要であるため、生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用を図ること。(2)特別支援学級のタブレットパソコンを使用した授業の推進をあげている。目的の達成状況は、ノートを有効活用した学級で、「家庭学習時間増」「学校で家庭学習の計画を立てる」児童生徒が増えるなど変化が見られた。また、特別支援学級の教員を中心に、教材変換ソフトの講習を行い、授業で使用する資料やテストなどを作成し、授業の理解度を深めることに活用することができた。総合評価はBとする。委員からの意見は、生活・学習ノート「紡ぐ」については、学力向上委員会により、企画された取組を教育委員会として支援したことを評価する。引き続き、現場の主體的な取組を大切にすることを望む。生活・学習ノート「紡ぐ」については、少しずつ成果が出はじめていると考える。今後、児童生徒、保護者、教員の意見、要望把握とそれに対する対策に努めることで、より効果的な取組となることを期待する、との意見をいただいた。意見に対する考え方は、「紡ぐ」に対する児童生徒、保護者、教員の意見の把握に努めていく。また、児童生徒を対象としたアンケートを実施しながら、家庭学習時間数の変化等を検証し、学力向上委員会とともに、「紡ぐ」の有効活用ができるよう仕様の修正や各校の取組紹介を行っていききたい。

資料1 により緑川学校教育課長説明(要旨)

事業名「英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実」について、当初目標は小学校英語教科化に向け、(1)研修会、公開授業等による小学校教員の指導力向上を図ること、(2)ALTの小学校定期配置による生きた英語を通じてのコミュニケーション能力の向上をあげている。目標の達成状況は、(1)研修会、公開授業、指導主事訪問を通じ指導力向上が図られた。(2)小学校専属ALTを6名配置し、小学校巡回を実施することができ、生きた英語に触れる機会を創出することができた。総合評価はBとする。委員からの意見は、2020年度からの小学校英語教科化に向けて、先行実施に取り組んでいることを評価する。さらに円滑な取組ができるよう、小学校と中学校の連携についても研究されることを期待する。児童が楽しく英語に触れられるように工夫することで、英語によるコミュニケーション能力の充実が図

られるよう、教育委員会の取組が進められることを期待する、との意見をいただいた。意見に対する考え方は、英語教科化に向け、英語担当指導主事が小学校向けの指導書を作成するとともに、全小学校を訪問し、チームティーティングを行うなど授業の支援をしてきた。今後の小学校から中学校へのスムーズな接続が行えるように努めてまいりたい。英語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、ALTを小学校へ配置し、生きた英語の授業に加え、英語に触れる機会を増やし、英語が楽しいと考える児童生徒を育成してまいりたい。

資料1 により緑川学校教育課長説明（要旨）

事業名「教員の働き方改革の推進」について、当初目標は、30年度については2つの新規事業を重点的に取組んだ。(1)中学校部活動指導員制度の導入、(2)タイムカード等の導入と教員の勤務時間の把握と適正化である。目標の達成状況は、(1)部活動指導員を3名配置し教員の負担軽減に努めた。(2)エクセルを使用した出退勤管理ソフトの入ったパソコンを33校に整備し、教職員の勤務時間の把握に努めた。総合評価はBとする。委員からの意見は、教員の勤務時間の把握と適正化を行うためには、タイムカードの活用に加え、根本的な業務の見直し等も検討する必要があると考える。教員の働き方改革により、質の高い授業が実現することを期待する。教員の長時間勤務の要因を分析し、教員の勤務時間の適正化に向けて、さらなる取組を進めることが必要と考える、との意見をいただいた。意見に対する考え方として、市教委主催の会議の簡素化、市教委からの調査の精選、スクールサポートスタッフの活用等を実施している。部活動指導員の人数の増員を図っていきたいと考えている。このほか、給食費の徴収方法の検討、統合型公務支援システムの導入、時間外の留守番電話による対応などにも取組んでいきたいと考えている。

資料1 により緑川学校教育課長説明（要旨）

事業名「放課後児童対策の充実」について当初の目標は、放課後児童クラブを利用する児童数は増加しており、その安定的な運営と児童の安全な施設利用を維持するため、放課後児童支援員等の処遇改善等を実施する。目標の達成状況は、(1)職員数、就労形態、勤続年数に応じて処遇改善額を行った。(2)放課後児童クラブ分室を4月から2増し、定員が60人増となった。また、学童保育所どんぐり分室を移転し、定員10人増としたほか、冷暖房機器を整備した。総合評価はBとする。委員からの意見は、放課後児童クラブのハード・ソフトにおける環境整備に取り組んでいることを評価する。放課後児童クラブにおいても、家庭学習の習慣化などを意識した取組が行われることを期待する、との意見をいただいた。意見に対する考え方として、放課後児童対策の環境整備に今後も取り組んでいく。放課後児童クラブにおいては、来館した後に宿題に取り組む時間を設けており、家庭学習の習慣化に向け、今後も継続していくと考えている。

峯村教育長

続いて、教育総務課にお願いしたい。

資料1 により石井教育総務課長説明（要旨）

事業名「食育の推進・充実に向けた環境の整備」について当初目標は、この事業は平成27年度の「今後の学校給食の運営方針」に向けた取組を進めていく目標を設定したわけだが、目標の達成状況にもあるように、当初目標とは異なり再検討を行った。その結果、教育委員会の総意で方針の一部の変更をして市長や議会に報告することができた。総合評価は、目標とは異なる内容なので、評価は難しいところだが、成果があったことでBとさせていただく。教育行政懇話会の委員からの意見だが、学校給食については児童生徒に対する食育の推進とともに、安心安全であることが大切であること。また、老朽化が著しい施設については、必要な修繕の対応を行いながら安心安全な学校給食が継続される必要があること。また、新しい学校給食の建設については、計画に沿って着実に進められることを期待する、との意見をいただいた。意見に対する考え方だが、学校給食には多くの役割が求められている。老朽化した施設については日々の点検に加え適切な時期に修繕や厨房機器の更新を行うことで、今後も安全安心な学校給食を安定的に児童生徒に提供していく。また、新しい学校給食センターについては、早期改築に向けて、検討など計画に進めていきたい。

資料1- により石井教育総務課長（要旨）

事業名「小中学校のあり方の検討」について当初目標は、検討委員会を設置して2年の期間で基本方針を策定するものであった。目標の達成状況だが、1月に検討委員会を設置した。検討委員会を2回開催したが、当初は5回程度検討委員会を開催する予定であったが、委員の人選等に時間を要してしまい、組織の立ち上げが遅れたことにより進捗に遅れが生じている。総合評価はCとする。委員からの意見は、今後の小中学校のあり方という重要なテーマを扱う事業なので、子育て世代を中心に市民の関心が高いものと考えていることから、幅広い年代の意見の把握に努め、検討を進めることが必要と考えている、との意見をいただいた。意見に対する考え方は、幅広く市民の意見や考え方を確認しながら進めていくことは重要であると認識している。市民への情報発信にも留意し、具体的にどうやって市民の皆さまの意見を聞くことができるかは、検討委員のご意見も伺いながら検討していきたい。

峯村教育長

これまで、上田市支援プラン6つの事業を申し上げた。何かご意見、質問等をお願いしたい。

質疑

平田委員

1 - 「学力の定着・向上」の意見に対する考え方 に、教育委員会として、学力向上委員会の意見や取組が、「迫力のある授業」「よく分かる楽しい授業」につながるように支援していくとあるが、「迫力のある授業」に関してはこの文言だけでは分かりにくく捉え方に違いが出てくるのではないかと。例えば「児童生徒の主體的な学びを促す迫力のある授業」「児童生徒の目的意識や学ぶ意欲を育む迫力のある授業」等、グランドデザインから抜粋するなり具体的に示したほうが良いのではないかと。

峯村教育長

こちらに関して池田教育参事からお願いしたい。

池田教育参事

「迫力のある授業」の捉え方は、個人で捉え方が違う、そのとおりだと思った。今年度は「迫力のある授業」ということで年間をとおして取組を進めているところだが、第1回目は、スタートは学力向上委員会の皆さんに、学力というのはどのように捉えているのかの話し合いをしていただき、それぞれが持っている学力観について、話し合いをしていただいた。そうした中で、だんだん皆さんが求めているもの、悩んでいるものが明らかになってきていると思った。それを受けて、今年度企画している「迫力ある学びの創造」を一般の先生方を対象にして、いろいろな経験を積んだ先生方、特に退職をされて再任用されている先生をファシリテーターとして、いろいろな悩みや考え方があることを出しあう中で、方向性を見つけるような話し合いになるかと思う。それぞれの持っている悩みや考え方を出しあい、それをアドバイスしていただきながら、より明確にさせていただきたいと考えている。いずれにしても子どもたちが型にはまった授業ではなくて、身を乗り出してくる授業、それをつくっていくためにはどうしたらいいか。最終的には教材研究等になると思う。そんな方向で現在時間はかかるかもしれないが進めているところである。

平田委員

私たちは「迫力のある授業」が重要なキーワードであると理解しているが、一般的に分かりやすい具体的な説明が欲しいと感じる。検討できるのであれば入れていただきたい。引続きお伺いしたい。1 - 「教員の働き方改革の推進」の意見に対する考え方に「スクールサポートスタッフの活用等を実施している」とあるが、状況をお伺いしたい。

緑川学校教育課長

現在、小中あわせて12校に入っている。

平田委員

詳しい内容については時間の関係もあるので、後ほどお伺いしたい。その他、1 - 「英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実」について、今後の方針等にかかれてるようにALTの方に研修を重ねていただき、子どもたちが英語を楽しめる授業をお願いしたい。また、児童とALTと一緒に給食を楽しんだり、学校生活において触れ合える取組を働きかけていただきたい。

緑川学校教育課長

中学校に配置されているALTは、各教室へ交代で給食を食べていた経過がある。最近の状況もまた確認したい。

平田委員

1 - 「小中学校のあり方の検討」について、委員からの意見にもあるように重要なテーマである。2019年度末には基本方針を策定するということが、残された時間が限られているのではないかと。今後の方針の中に、具体的なスケジュールを策定するとあるが、現時点で今年度何回会議を開いたのか。

石井教育総務課長

今年度5月に1回開いている。来週で4回目を開く予定である。

平田委員

委員からの意見に「幅広い年代の意見の把握に努め、検討を進めることが必要と考える」とある。この内容は、幅広い年代の意見の把握に努めた上で、基本方針策定に向けて検討を進めてほしいという意味合いだと私は捉えるが、対する考え方が「市民の意見や考え方を確認する具体的な方法をについて、これから検討していく」というような内容である。この状況で、今年度末に基本方針が策定できるのか。

石井教育総務課長

おっしゃるとおり、なかなかお答えしづらいことである。ほかの地域では、学校の適正規模、適正配置の検討をしているところもたくさんあるが、そのテーマだけでも10数回も検討しながら進めている。状況を見ると、その中では視察等をして進めている。加えて、今回の上田市のあり方の検討は、適正規模、適正配置だけではなく、運営のあり方、ソフトの部分も含めてかなり広い部分でまとめていかなくてはならないと考える。今年中にまとめることは厳しいと思っている。スケジュールを立ててはいるが、そのスケジュールの中でまとめるということは非常に難しいような状況が現在生じている。また、丁寧に進めていくことが当然あるので、場合によってはもう少しかかってしまう。昨年5回、今年5回、計10回程度と考えていたが、結果的に2回しかできなかったのも、その分、今年でとり返すことがなかなか難しい。委員さんも大勢いるので、あまり頻繁にはできず正直厳しい状況である。

平田委員

平成29年度の懇話会での提言書には「速やかによりよい施策を推進していく」とある。丁寧に一つひとつ進めていかなくてはいけない大変重要な事業である。今後の方針に沿って確実に進めていただきたい。

綿谷委員

1 「学力の定着・向上」で生活・学習ノート「紡ぐ」を有効活用する、それを徹底させていく方向だが、小学校・中学校と学校訪問させていただいて、その考える力をつける授業をどの学校も謳ってやられている。非常に良いことだと思う。ただ、実際に学力の定着・向上というと、その評価というのは出ているのか、どういうところで子どもたちが向上しているのか、その結果というのは、例えば3ヶ月後、半年後と評価が出てくる。ただ点数だけの問題ではな

くて、考える力がついているのかどうか、そういう評価はどこですかとお聞きしたい。

池田教育参事

どのように子どもたちの学力の定着・向上を評価するのか。もちろん、お話があったように点数で図れる部分もあると思う。例えば、全国学力テストの問題を見ると単に知識だけを問う問題ではなくて、いろいろな授業の中から自分で考えて判断をし、まとめて答えを出すというようなもの。いろいろな話し合いの中でそれについて自分の考えを述べるというような、そういう問題が増えているように思う。特にB問題がそうだが、そうした中で単に知識理解を超えた自分で判断する力がかなり図れるようになってきていると思う。指導要力や通知表もそこにも知識理解ではなくて、例えば、数学でいうと数学的に考える力だとか、社会でいうと資料を活用して考える力というような部分がある。そして、意欲、態度、前向きにする学習をしているかどうか、そんな部分の評価項目がある。かつて、子どもたちを評価するということは行われているわけだが、そうしたものをある面では具体的に、ではどういう姿を良しとするのか。他面的に子どもたちの成長を捉えていくことについては、今までもそういう方向があり、今後とも考えていきたいと思っている。いちばんは授業での子どもたちの姿を、教員が捉えてどのように評価するのか、非常に大事なところである。紙の上だけではなくて、子どもたちの成長を具体的に捉え、どの子にも指導していきたいと思っている。それはあらためて各学校にも指導していきたい。

綿谷委員

「迫力ある授業」「よく分かる楽しい授業」は非常に大事であり、子どもたちが前向きに積極的に取り組んでいけるような授業づくりが重要だと思う。ぜひ進めていただきたい。もう一つ、1の「教員の働き方改革の推進」だが、部活指導員の導入をタイムカードの活用で把握していくことだが、委員からの意見で「根本的な業務の見直し等を検討する必要があると考える」とあるが、これも行わないとなかなか働き方改革になっていかない。ただ時間を管理していることではなく、業務の中身が本当に適正なのかどうかだと思う。実際にタイムカードを押しておいて、仕事をするという可能性はある。私の会社でも労働監督署の指導があるので、なかなかそういうことはできなくなってきている。根本的に業務を見て、適正な業務内容なのかということをしっかりやっておき、タイムカード等で時間管理をやるべきだと思う。業務の検討はどの程度されているのか。その中で改革の推進ができていくのかお聞きしたい。

緑川学校教育課長

当初目標にある2点については、平成30年度目標ということで重点的に行ったものである。当然、これ以外にもいろいろな部分を行っていて、30年度には中学校の部活動がいちばん遅くなる傾向があるということ。また時間の意識がないのか、子どもを育てるためにいろいろな資料をつくっている。早く帰ろうという意識が若干薄い部分があるためか、どのくらい仕事をしているのか、先生も管理職の立場からも知っていただきたく、タイムカードを導入して、まずは現状を把握していただくことを努めたところである。今後の給食費の徴収については、上田市の方でやっていくような流れがきている。例えば、学校で給食費を収めていただいている

ことを市の方で検討している。統合型のホームシステムというものがあり、長野県の方で統一したシステムでいろいろなものを動かしていく。例えば、メールを送ったり、タイムカードのシステムでも使ったり、いろいろなシステムの関係ができるものになる。学校の先生は県下で異動があり、市町村によってはパソコンのやり方の違いがあるため、これを統一してできることにより、学校の先生の負担軽減になると思う。まだ上田市ではやっていないが、時間外の留守番電話の対応というのも各学校進めているので、このようなことも研究していきたい。また委員さんがおっしゃっていただいた部分は、教育委員会サイドでできることである。学校でなくても職員の皆さんが協働やコミュニティスクールのイメージ、地元の皆さんに手伝っていただくことで、分担をしていただくようなことも進めていければと考えている。

綿谷委員

学力の向上・定着を図るために先生は、やはり子どもたちのためにどういう授業を進めればいいのか自分で明日の授業をああして、こうしていこうと相当仕事量が多い。そういうところもいろいろと検討していかないと、なかなか働く時間が減っていかないと。学校の方もすごい先生もいると思うし、しゃべっておしまいになっている先生もいる。そういう面でも授業をしながらやっている先生は家に帰っても仕事をやっていると思う。家に持ち帰ってやる時間もこの中に入っているわけだから、そういうところもしっかりと考えていかなくは働き方改革にはつながっていかない。そういう中身を把握していただきながら、ぜひ評価をしていただきたい。実際に先生も教育委員会の中もそうだが管理することが相当あると思う。なかなか働き方改革というものは難しいと思うが、皆さんぜひお考えいただきたい。

横関委員

1 - 「学力の定着・向上」をお願いしたい。具体的な取組の実施状況にある「市校長会、学力向上委員会にて活用事例を公表」とあるが、これに関して意見に対する考え方で、「迫力のある授業」をしていくことだが、この活用事例は先生方にはどのように共有されたのか。

池田教育参事

校長会、あるいは学力向上委員会で「紡ぐ」の活用事例を具体的に発表していただいた。小学校、中学校それぞれ一生懸命取り組んでいるところを発表していただいた。例えば、中学校では学校にいるうちに「紡ぐ」を書いてしまう。時間のある子どもは宿題をはじめてもよい、そうするとその流れにより、家に帰ってすぐに家庭学習につながっているという学校がある。これも委員や校長を通じて伝わっている。先日も校長会があり、学力向上の話し合いが行われ、その中でこれを参考にして進めたところ、家庭学習ゼロの子どもがいなくなったという学校の発表があった。やはり、習慣付けることやメディアコントロールを考えても、かなりこれについては成果、取組み方によっては良い方向へ向かっているのではないかと思う。今、「紡ぐ」は全学校にあるので、それを活用するについては活用の仕方をこういう形で子どもたちに示しましょうということもやっているのだから、家庭学習の習慣、もう一つは予習をいかにするか、復習をして予習に目を向けるか、あるいは自主学習を進めていくかという内容的なものについても事例発表があり、そうした面にも目が向いていると思う。最終的には学校の先生方の取組、

受け止め方になってしまうが、できるだけ積極的に伝わっていくよう努めている。

横関委員

「紡ぐ」の内容がやはりいちばん大事だと思う。宿題や家庭学習をやったからといって、学力向上になったということもここでは検証されていない。アンケートも小学校7校、中学校3校のみなので、そこからどのような成果が出たということは、ここでは分かりづらいと思う。これからも決まった小学校7校と中学校3校を抽出して行うのかは疑問に感じる。「紡ぐ」を上手に活用し宿題の出し方を工夫している先生方もいらっしゃる。生徒が学びたい、知りたいという学習課題をどのように出しているのかという良い事例を、みんなで共有していただくことはすごく大事なことだと思う。その共有するのも校長会で聞いたから、また校長から聞いてではなく、いろいろなネット環境等があるので先生方がすぐに見ることができる状態にしておくことなど、それも業務のスリム化になると思う。情報共有を先生方でどんどんしていき、自分たちで質の向上をしていこうという意識が高まると良いと思う。それが働き方改革につながっていくのではないかと。それが、1 - 「教員の働き方改革の推進」につながって、各学校でやれることになると思う。1 - 「教員の働き方改革の推進」は具体的に例えば、行事を減らすなどしていかないと、なかなか先生方も、保護者や生徒も多様化している中で、その対応に追われることがあり、忙しい毎日を送っていて心身共に疲れてしまうのではないかと。いかにして子どもたちのために時間をかけられるかを考えなくてはならない。例えば遠足を減らしてしまうなど、思い切った改革も必要になってくると思う。また、働き方改革で45時間以内と時間だけに囚われてしまうと、迅速に行わなければならない生徒対応が遅れてしまうことにもなりかねないので、先生方の業務をどのようにしたらよいか考えていただきたい。そのほか、1 - 「英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実」について、意見に対する考え方に「英語に触れる機会を増やし」とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

緑川学校教育課長

今までALTの先生は、少ない時間だが小学校へまわっていただいていた。例えば、休み時間や授業を受けるときにもALTの先生がいる環境の中で英語に触れる機会が増えることを考えている。公民館を中心にいろいろな事業を進められているので、また新たな展開を行っていきたいと考えている。

横関委員

加えて、「英語に触れる機会を増やし、」これはさらにプラスしてあると思ったが。そういうことではないのか。「ALTを小学校へ配置し、」そのあとにこの文章がつながっていることでよろしいか。

緑川学校教育課長

今、お話しした公民館の活動や指導主事が昨年2回ほどキッズの取組を行い、そのような取組も進めている。必ずしも学校だけではなく、いろいろな場面で触れる機会を増やしていきたい

いと思う。

横関委員

そのようにしていただくと分かりやすく良いと思う。

横関委員

もう1つ、1 - 「食育の推進・充実に向けた環境の整備」について、自校給食の調理場を2回視察へ行ったが、新しい学校給食施設とまったく関係ないわけではないので質問させていただく。具体的な取組の中に施設の視察・調理現場との意見交換を4回行ったとあるが、自校給食の視察2回分も回数に入れてよいと思う。

石井教育総務課長

自校給食も含めてこの回数（4回）である。

横関委員

丸子と第一、第二、長野、自校2回の6箇所行っている。

石井教育総務課長

箇所数でいわれているが、丸子と第二、センターと自校が同じ日で視察に行っている。2カ所まわっても1日を1回とカウントの仕方をしている。

横関委員

6カ所視察に行き検討を重ねてきた事が記録として明確に残らないと思う。カウントの仕方を考えていただきたい。

石井教育総務課長

分かるように標記したい。

横関委員

そうしていただけるとありがたい。

横関委員

1 - 「小中学校のあり方の検討」について、今後の方針の中で「基本方針の素案の段階でパブリックコメント（意見公募）」とあるが、基本方針がいつできるのか分からない段階で、パブリックコメントはけっこう時間がかかると思う。素案ができる前に行ってもよいと思うがどうなのか。

石井教育総務課長

一定の素案がそのままいってしまうことではないが、ある程度の形を見ていただいた上でそれに対してどのように考えているのか。やはり何もなくていろいろな意見を伺うということは、

パブリックコメントの主旨が失われてしまうので、ある程度まとまったところで行いたいと思っている。

横関委員

なかなか日程の予定がとりづらい委員さんがいることで進まないようだが、やはり進めていかななくてはならないので、ぜひ早急をお願いしたい。

池田教育参事

先ほどいただいた意見について、1つは「紡ぐ」がどのように子どもたちの中に学習の時間を増やす等の成果があったかのアンケートだが、今後、抽出で行うのかどうかについて検討していきたい。もう1つ、子どもたちの状況を知ること、学力状況調査と同時に生活に関する調査がある。この中に家庭学習を何時間行い、テレビを何時間観たという数字のこと、計画的に学習を進めているのか。これをすべての学校で6年生、中3が答える形になっている。それを見ても少しずつ上がってきていると思う。評価には何かつながると思っている。もう1つ、学校の業務改善の話については、働き方改革の言葉が出る前から先生方が忙しいということで、ずいぶん前から取組まれてきている。例えば、行事の精選や会議の縮減、今までは月に4回、毎週会議があることが当たり前であった。今は、1、2回に抑えられている。職員会の冊子もなくなり、ペーパーレスで行っている。行事についても運動会が半日になっていたり、夏休みのプール通いもなくなったりする学校もある。いろいろな形で業務改善がなされているから、毎年、年度が終わると来年度はどうするのかソーシャルプロジェクトチームを組んで、どうやったら業務改善ができるのか考えている。そのねらいは、働く時間を減らすことではなくて、授業の質を向上させること、子どもたちと向き合う時間をいかにつくるのかに取組んでいただいている先生もいる。かなり、スリムになって進んできているかと思う。授業を中心に、子どもを中心に考えていくことは今後も続けていきたいと思っている。

峯村教育長

それでは、時間もかなり経過しているので、スピードアップをお願いしたい。この事業評価シートは事前に委員さんにお渡ししてあるので、説明を端的に、ご意見をいただきたい。

資料2 - により翠川教育施設整備室長説明（要旨）

事業名「学校施設カルテに基づく個別施設著寿命化計画（素案）の作成」について、当初目標は資料記載のとおり、さまざまな現状把握した上で個別の施設計画の素案まで作成することが30年度の目標であった。目標の達成状況の記載にあるように、素案の作成まで至らなかったため、現状の把握と点検の状況までである。総合評価はCとさせていただく。委員からの意見について、この長寿命計画は、学校施設の統廃合の視点も配慮する必要があることで、引続き施設カルテの作成を行って、計画的な学校施設整備の実施するために、長寿命計画の策定が進められることを期待するというご意見であった。意見に対する考え方は、個別施設計画は、国庫補助金採択への影響もあることが見込まれているため、令和2年度末までに策定できるよう努めてまいりたい。計画の策定も定期的な計画の見直しを行っていくものであるため、それ

それぞれの微妙な部分の方向性が定まったものについては、適時反映していく。

資料2 - により翠川教育施設整備室長説明（要旨）

事業名「学校間の機能面での不均衡解消のための学校施設建設に係る標準モデルの検討」について、当初目標は時代に即した学校施設整備を行うことが重要であることから、今後の施設改築に向けて、標準的な機能・設備等を定めた標準モデルを作成するための条件整理を行う。達成の状況だが、施設の構造、材質、必要な設備等について、庁内関係課と協議を重ね、一定の方向性を確認した。総合評価はBである。委員からの意見は、子どもたちが同じレベルの学習環境で学ぶことは非常に大切な観点で、さらにこの標準モデル作成について、長期的な視点でご意見をいただいている。意見に対する考え方として、標準モデル策定にあたっては、将来の施設維持管理において安価で済む材料等を積極的に活用するなどの視点も重要であると考えられる。今後も具体的な学校施設の改築事業に合わせ、標準モデルの具現化を図ってまいりたい。

峯村教育長

ここで2 - から2 - までのご意見をお願いしたい。

質疑

横関委員

2 - 「学校間の機能面での不均衡解消のための学校施設建設に係る標準モデルの検討」について、今後の課題ということで標準モデルは、何をどう持って標準モデルにするのか。学校というのは、ただ建物の箱ではなく、やはり子どもたち、先生、保護者、地域の皆さんのものである。以前にもお話ししたと思うが、想いを込めた学校、地域の想いというものもあると思う。そこを標準化することに関してどのように考えているのか。

翠川教育施設整備室長

おっしゃるとおり、地域の想いやさまざまなご要望もあると思う。ただ、この現在の学校を適正な期間で更新していくことを考えると、どうしてもできるだけコストをかけずに改築、更新ができるような方法を考えていかななくてはいけない。一定程度の標準的な建築様式、外観であることや基本的な機能、こういったところを標準モデルとして、点検をして、一定程度の枠を作りたいと考えている。地域の要望と具体的な建築設計の段階になって、そこは多少のずれはあるが、ある程度の標準的な建築様式を定めておきたいと考えている。

横関委員

実施設計になってからだと遅いので、その前に生徒・保護者・先生・地域の方々等の意見を聞いていただきたい。標準モデルというのがどういうものなのか。以前はバッテリー型校舎が流行っていて、三中、東小学校がそうだが、昔はよかったのかもしれないが、今はそうではない。100年の計画となるものと委員からの意見として記されているので、学校をつくるときに子どもたちや保護者、先生方と十分協議しながら、想いのこもったものをつくっていただきたい。

峯村教育長

ほかにかがだるうか。なければ次に入る。

全員了承

資料3 - により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「『上田市歴史文化基本構想』の策定と『日本遺産』への認定申請」について、これについては総合評価をBとさせていただく。委員からの意見は、上田市では平成28年度から事件をかけて積み重ねてきた文化財の悉皆調査が完了したこと。「上田市歴史文化基本構想」の策定に至ったことに評価をいただいている。データの有効活用という点から市民へも適切に情報提供がなされることを期待する。日本遺産認定については、観光部署をはじめ、他部署との協働が必要と考える。さらに磨きをかけ、より魅力的な内容となることを期待する。これについて意見に対する考え方だが、「歴史文化基本構想」の周知を図りながら、「文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組を進めたい。整理されたデータについては、今後行う「歴史文化基本構想」の説明会や美術館と連携して開催する展覧会等で広く提供していく。

「日本遺産」については、引続き庁内関係部署と連携しながら検討を進めるとともに大学生や外国人など、多様な立場の方の意見を伺いながら最終の準簿を進めていきたい。

資料3 - により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

事業名「史跡等整備の推進と文化財の保護」について、当初目標は地域の歴史と文化を世代を超えて継承していくために、文化財への関心を高め、それらの保護と活用を推進する。評価についてはBとさせていただく。市民が身近に文化財に触れる機会として、「文化財 de 文化祭」などのイベント、地域の歴史と文化の世代を超えた継承に向けて取組んでいることに評価をいただいた。行政にしかできない発掘調査や報告書の作成をしっかりと行うことが大切と考える。地道な取組だが、それが数十年後の上田市の観光資源となる可能性もあると考える。とのご意見である。意見に対する考え方として、「文化財 de 文化祭」の事業は、今後も新鮮な魅力が伝えられる取組を企画してまいりたい。地域の歴史文化に関する調査や資料収集を博物館や公文書館等と連携しながら、今後も継続的に実施していきたい。今後の方針等について、史跡整備については、新たに専門家会議を組織して指導や助言を図るとともに、「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」については策定から15年を経過することから、内容の見直しを進めていく。史跡や建造物等の保存に取り組むとともに、文化 de 文化祭等の機会を通じて文化財の公開・活用を推進してまいりたい。

資料3 - により竜野生涯学習・文化財課長、滝澤博物館長説明（要旨）

事業名「郷土の歴史、文化、先人・偉人を知る機会の創出」について、当初目標は、郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を子どもたちや市民に知っていただき、郷土への理解と愛着を深めていく機会を創出していくため、展示会・講座等の開催の事業を実施していく。総合評

価はBとさせていただきます。市民に郷土の歴史や文化を知る機会を創り、構成につなげていく大事な取組である。企画展等の広報については、情報発信の方法をさらに研究されることを期待する。郷土の歴史文化を大切に守ることが、郷土への愛着や住みたいという思いにつながる。教育委員会が作成した『ふるさと上田人物伝』はこれからも有効に活用されることを期待する。というご意見をいただいた。意見に対する考え方として、「郷土への理解と愛着」を喚起するために、さまざまな形で歴史や文化を知る機会を創出し、着実に発信していきたい。

特に企画展については、紙ベース・ネット情報等多様な手段により、確実に伝わる広報の工夫を重ねてまいりたい。未来を担う子どもたちへの「郷土への関心の創出」が大切である。人物伝を活かしたパネル展示を含め、分かりやすい情報発信を目指していきたい。

峯村教育長

3 - から3 - まで質問や意見ををお願いしたい。

平田委員

3 - の「郷土の歴史、文化、先人・偉人を知る機会の創出」について、委員からの意見にある『ふるさと上田人物伝』だが、「これからも有効に活用されることを期待します」とある。ホームページでも掲載されているが、現在の活用はどのような形で進めているのか。

竜野生涯学習・文化財課長

この冊子はそれぞれご覧いただくわけだが、これをさらに抜粋した形でここには46人掲載されているが、850人の方を抽出してパネルをつくった。それをまず、今年は公民館等を巡回しながら、地域の子どもたちに見ていただく機会をつくっていききたいと考えている。

平田委員

児童にも分かりやすい文面の冊子である。学校でも上手く利用していただければと思う。

峯村教育長

ほかにはいかがか。

横関委員

同じく、3 - 「郷土の歴史、文化、先人・偉人を知る機会の創出」をお願いしたい。具体的な取組に「学校出張歴史体験教室」が7校、この取組に関してもっと行っていただければと思う。先日、アウトリーチで金子三勇士さんのコンサートを西小の5年2組の生徒さんと一緒に聴かせていただいた。実際に手の届くところに芸術や文化があることはとても大事なことだと思う。先日、幼保小中の連絡協議会での報告で貧困家庭が多いこと。改めて貧困と感じている保護者が多いことを知った。貧困のために文化や芸術に触れる機会が少なくなってしまう子どもたちもいるかと思う。学校で文化や芸術に触れる機会を設けていただくことはとても大事なことだと思う。現に音楽を聴いている姿、授業で博物館の土器を観て説明を聴いているときの姿は子どもたちがいきいきと輝いて見えたのが印象的だった。ぜひ文化や芸術が手の届くと

ころにきていただくことをお願いしたい。

峯村教育長

ほかにはよろしいか。よろしければ次の4 - から4 - をお願いしたい。

全員了承

竜野生涯文化財課長

先ほどの3 - のところで、滝澤博物館長の説明があったので、4に入る前に説明をお願いしたい。

滝澤博物館長

住みたいまち、上田をつくる。それをつくっていくには郷土への愛着。しつけるのではなく、楽しみながら学んでお互いに学んでいきたい。そういった機会をさらにできる範囲でつくっていききたいと思う。

資料4 - により竜野生涯文化財課長説明（要旨）

事業名「地域と連携した学校を支援する取組の充実」について、当初目標は地域とともにある学校づくりの取組が、学校の実情や地域の特性を生かし持続可能なものとなるよう、(1)取組の周知、広報、ホームページの整備、周知チラシ等の配布。(2)統括コーディネーターを核としたコーディネーター及び、ボランティアの育成とネットワークづくり、研修会・情報交換等の開催をしてまいりたい。総合評価はBとさせていただく。委員からの意見については、県内の公立学校に関するコミュニティスクールの調査研究。これは、統括コーディネーターを配置している地域は、配置していない地域に比べて学校長の成果意識が高い傾向にあるとの調査結果がある。県内でも先進的に統括コーディネーターを配置している上田市の取組について評価する。更に各学校の特色を生かした、よりきめ細やかな対応を可能とするため、また学校数、市域を踏まえ、統括コーディネーターの増員が必要と考える。コミュニティスクールについては、関係者の認識を「地域が学校を支援する」から、「地域と学校が対等な立場で連携・協働していく」に変えていくことで、より持続可能な仕組みになることを期待する。意見に対する考え方は、統括コーディネーターを今後も活用していきたいこと、現在、各自治体というよりは学校運営だけの組織の充実、「双方向の協働活動」としての持続可能な取組になるよう進めてまいりたい。

資料4 により西嶋人権同和政策幹説明（要旨）

事業名「人権同和教育・啓発の推進」について、当初目標は、上田市の人権施策基本方針に基づいて、多くの皆さんに啓発会や研修会に参加していただき、人権意識の更なる向上を図ることを目標とした。総合評価はBとさせていただく。懇話会への委員からの意見は、学校、地域等で積極的に取組が行われている。人権問題から多様化している中、今後も市民への人権同和教育と啓発に取組まれることを期待するという評価をいただいた。それに対する意見の

考え方は、市民一人ひとりがさまざまな場で、態度や行動において人権尊重の精神が発揮できるよう、人権課題が多様化している中、正しい理解と認識を深められるよう、今後も有意義な講演会、研修会を計画してまいりたい。

資料４ - により竜野生涯文化財課長説明（要旨）

事業名「青少年の健やかな成長を支援する取組の充実」について、当初目標は子ども会体験活動等による事業を実施している。あるいは健全育成事業として、インターネット・スマホの適正利用啓発を進めるためのチラシ等作成を行う。総合評価はBとさせていただく。委員からの意見は、野外体験モデルなどの活動を評価する。野外体験活動については、育成会における取組に加え、各公民館とも連携し、多くの人が体験事業に参加できるように取組まれることに期待するとのご意見である。意見に対しての考え方は、モデル的な事業を進めていきたい。今後の活動だけではなくて、公民館でのさまざまな取組の情報共有をしていながら検討していく。また、子どもたちの情報モラル、メディアリテラシーについては、さらに広がりのある啓発活動へと展開させていきたい。

資料４ - により小泉中央公民館長説明（要旨）

事業名「公民館事業の充実」について、当初目標において3つの目標を掲げている。人生100年時代を迎える高齢者の学びの拡充、公民館事業を回すことで士気を高めること。今年度100周年を迎える「児童自由画運動」等の情報発信を行うことで、市民の自発的な学習運動の促進する機会を提供する。総合評価はBとする。委員からの意見は、生涯にわたって学び成長できるように、各地区公民館において、さまざまな公民館事業が展開されていることを評価する。これに加えて、各分館における主体的な取組が行えるような環境づくりについても研究されることを期待する。公民館事業の充実に向けて、数値化は難しいものの、より能動的に公民館事業に参加する住民を育て増やしていくという視点も大切であると考え、との意見をいただいた。意見に対する考え方は、市内の公民館には、専門の研修を受け、経験を積んだ職員が配置されており、分館活動に関するマニュアルも用意されているため、各分館の主体的な活動をサポートするよう適正なアドバイスを行っていく。時代の変遷に応じて、住民が求める「学び」の種類・ニーズも変わってきている。より多くの人々が集う生涯学習施設とするため、これまで以上にさまざまな学びの機会を提供し、主体的な学習の場となるよう努めていきたい。

資料４ - により清水上田図書館長説明（要旨）

事業名「図書館サービスの充実」について、当初目標は資料収集基本方針及び除籍基準を検討する。各館の未整理資料の目録作成と資料の活用を図ることから、総合評価はBである。委員からの意見は、基本方針及び除籍基準を策定したことを評価する。さらに図書館サービスの指針となるものを策定することを期待したいというご意見である。意見に対する考え方は、貸出しサービスの更なる向上を努めることはもちろんだが、レファレンス（調査相談）の利用を促進するような体制と環境整備に努めることとする。今後も図書館基本構想に基づいた取組を進めてまいりたい。

峯村教育長

委員の皆さん、17時から別の会議が入っているため、ご意見等、端的にお願いしたい。

質疑

平田委員

4 「人権同和教育・啓発の推進」の今後の方針等の中で、下から2行目に「把握に努め、機会を見て講演会、研修会の広報を積極的に行っていく」とあるが、「機会を見て」は不要ではないか。「把握に努め、講演会、研修会の広報を積極的に行っていく」で良いと思う。

西嶋人権政策幹

おっしゃるとおりである。

平田委員

4 - 「青少年の健やかな成長を支援する取組の充実」について、意見に対する考え方の「体験の場所やプログラムの事例等の情報提供等について検討していく」とあるが「情報提供」だけでよいのではないか。情報提供のほかにも検討することがあるのか。

竜野生涯学習・文化財課長

情報提供等の等は削除でお願いしたい。

横関委員

4 - 「公民館の充実」の意見に対する考え方で、「時代の変遷に応じて、住民が公民館に求める「学び」の種類・ニーズも変わっている」とある。把握のために何かやる予定はあるか。

小泉中央公民館長

従来は基本的に講師の方がお話をして、聞くということだった。新しいスタイルとして、受講される方も一緒に参加して、自ら発表する機会も大切だと思う。委員からの意見にあるように、能動的にということと受講者も主体的に講座の方へ参加することも考えて組んでいきたいと思う。

横関委員

定期的にアンケートもとっていただいて、ニーズの把握に努めていただきたい。次に、4 - の「図書館サービスの充実」をお願いしたい。平成30年4月に「第4次図書館基本計画」ができたことだが、平成26年度と違って驚いた。これだけ時代が変わってきていると感じた。第4次図書館基本計画が良いものだと思うので、これを基本に検討していただきたい。

峯村教育長

たくさんのご意見、質問をいただいた。それでは、事例評価については終わりにしたいと思

う。続いて、3報告事項に入る。

全員了承

3 報告事項

(1) 第59回上田市短詩型文学祭募集について(中央公民館)

資料2により小泉中央公民館館長説明(要旨)

「上田市短詩型文学祭」は、文化活動の振興と地域文化の向上を目的として昭和32年から始まり今年で59回を迎える。本年も短詩型文学作品(短歌・俳句・川柳・詩の4部門)を募集する。作品募集について、令和元年7月22日(月)から8月26日(月)まで、受付場所は、市内9公民館及び高齢者福祉センターで行っている。投稿料は、一般の部では、1部門につき500円(投稿数は、短歌と誌は1作品まで、俳句と川柳は2作品まで)。ただし、小・中学生の部は、無料とする(投稿数は1部門1作品まで)。広報については、広報うえだ7月16号、ホームページ及び公民館報にて広報する。投稿用紙については、市内の小・中・高・大学、上小地域の公民館等で配布を行うとともに、上田創造館、高齢者福祉センターでも配布を行っている。また、資料においては上小地域等としているが、佐久市、小諸市などの東信地域に加えて、千曲市、坂城町の公民館にも同様の資料を配布している。また、12月1日(日)には、上田文化会館において「上田市短詩型文学祭」を開催し、入選者の表彰を行う。昨年度の実績については、資料2の裏面をご覧ください。昨年の応募者数については、1,501名、そのうち小中学生が1,367名、全体の91%となっている。賞状の内訳については、資料記載のとおりである。一般の部では、佳作を除いた受賞者全員に賞状をお渡しし、上位の受賞者には盾とカップをお渡しする。小学生、中学生の部では奨励賞受賞者を対象に賞状と副賞のシャープペンシルを贈呈する予定である。

全員了承

峯村教育長

続いて、令和元年度上野が丘わいわい塾の実施について、山口館長お願いしたい。

(2) 令和元年度上野が丘わいわい塾の実施について(上野が丘公民館)

資料3により山口上野が丘公民館館長説明(要旨)

子どもの居場所づくりとして始まったわいわい塾は、今年で8回目を迎える。今年は、7月29日(月)から8月1日(木)の4日間、上野が丘公民館や神科小学校校庭を会場に開催する。本年度は定員60名に対し、132名の申し込みがあった。抽選を行い、参加者を決定し、1月16日(木)には保護者説明会を行った。今年も子どもたちの数を超える地域の大人たちが、わいわい塾のスタッフとして参加される予定である。この中にはわいわい塾を体験した中学生、高校生が35人含まれている。今年のポイントは資料にもお示ししたとおりである。8回目となるわいわい塾は、皆様のご協力もあり事故もなかった。1回目から参加されるボランティアの方も多く、地域住民の活躍の場、交流の場としても定着してきている。今年は、あらためて過去7回を振り返り、これからの持続可能なわいわい塾はどのような形が良いのか。地域の皆さんとも話し合いを続けている。そのような中、今年は安全に子どもたち、ボランティアの皆さんがゆとりをもって安全に活動できるよう、定員の見直しを行った。また、わいわい塾に参加できない子どもたちも参加できる体験型授業を複数計画している。いずれにしても夏休み中

は急激な天候の変化や暑さが予想されている。安全の確保と参加される小学生、ボランティアの皆さんの健康を十分に留意していきたいと思う。

峯村教育長

続いて市立博物館、夏季企画展「上田の災害」開催報告をお願いしたい。

(3)市立博物館夏期企画展「上田の災害」開催報告(市立博物館)

資料4により滝澤博物館長説明(要旨)

西日本災害から1年、ついこの間の南九州豪雨、そういったものが過去に上田でもあった。災害はいつでもどこでも起きる可能性があり、過去の災害から現代の私たちが学ぶべきことは何か、災害に対してどのような対策ができるのか、この夏一緒に考えていただきたい。

(5)日本劇作家大会2019上田大会 教育関係プログラムについて(交流文化芸センター)

資料5により久保田交流文化芸術センター副館長説明(要旨)

演劇の祭典「日本劇作大会」が8月16(金)から8月19(月)の全4日間、サントミュージーゼを中心に開催される。日本劇作家大会は、日本を代表する劇作家の皆さんが4日間で延べ200人以上、参加者が日本各地から5,000人を超える芸術の祭典となっている。日本各地から多くのアーティストと一般の方が訪れ、上田に終結して鑑賞、参加、研修等によって舞台技術の意味や友好性を感じていただけるイベントとなっている。なぜこの事業を教育委員会でご紹介するのかというと、2,020年度から小学生の学習指導要領が全面的に改定される。いろいろと改定ポイントはあるが、その中の一つとして表現力があり、1つのカテゴリーが文化、芸術に触れることであると考えている。サントミュージーゼの事業として、ふれあい事業として、小学校訪問コンサート、市内全小学校前25校に演奏家を派遣し、参加、体験型の授業を行って大変好評である。その中の体験型授業として、アウトリーチ授業がある。これについては、年々募集をしても応募数が少なく3校だけであった。本年度は、問い合わせを含めて13校あった中から5校の小学校へお伺いさせていただいた。私も見学させていただいたが、参加した児童がすべて主体的に自己表現をしているのが印象的であった。こういったことで、学習指導要領の表現力を意識されて応募数が多かったことだと思う。先日開催された校長会でもお話をさせていただいた。パンフレットを開いていただくと、右上のところに「上田のまちでまなぶ つながる」とあり、これがテーマである。漢字で書く「街」は行政がつくるといわれている。ひらがなの「まち」は文化がつくるといわれている。また次の「まなぶ」は主体的な表現力に演劇が果たせる役割、可能性を考える機会にしてある。「つながる」は、現代社会において、社会、人と人のつながりが希薄になっている中で演劇を通してつながりの創出をしている。企画としては、1番から44番までのプログラムを予定している。特に8番は渡辺えりさんの講演会がある。また19番と20番は別紙の資料に記載があるのでご覧いただきたい。これが演劇における学びのための演劇1、2として、「教育と学び」について考えるセミナーを劇作家で有名な平田オリザさん、青山学院教授の苅宿俊文氏を迎えて行う。それ以外にも40番のスペシャル・リーディングとして有名な女優の竹下景子さんが訪れる。芸術による子どもへの効果を考えるとされているので、ぜひ皆さんもご参加いただきたい。参加方法に登録が必要となるため、サントミュージーゼにお問合せいただきたいと思う。

(6)寄付の状況(学校教育課)【説明なし】

資料6

(7) 行事共催等申請状況について(学校教育課 生涯学習・文化財課 スポーツ推進課)
資料7 1 7 2 7 3 【説明なし】

(8) 公民館だより(各公民館)【説明なし】
資料8

峯村教育長

報告事項について1、2分の質疑をお願いしたい。よろしいか。たくさんのご意見をいただいた。それでは以上で定例会を終了する。

全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。